

第1回後腹膜肉腫診療ガイドライン統括委員会会議

議事録

日時： 平成30年10月19日(金) 9時00分～10時00分

場所： PRONTO IL BAR みなとみらい店

出席者： 小寺、西山、秋山(以上統括委員)

(敬称略) 川井(委員長) 岩田(事務局)

欠席者： 安藤

1. 挨拶

川井委員長より、開会の挨拶を行った。

2. 泌尿器科肉腫の診療実態調査

西山委員より、院内がん登録を用いた泌尿器科肉腫の診療実態調査の結果について報告された(資料1)。

過去4年間の泌尿器科肉腫の総数は4019例であり、内訳は後腹膜3191例、前立腺442例、腎・副腎241例、尿管・膀胱145例であった。発生年代は尿路では70歳代が最も多く、それ以外は60歳代に多かった。手術症例は国立がん研究センター中央病院が301例と最も多く、続いてがん研有明病院、静岡がんセンターが続いた。集約化は明らかであるが、海外でのガイドライン(TARPSWGなど)との方針の異同はどうか、との意見が出された。

秋山委員より、TARPSWGの実施するレジストリ研究の紹介がなされた。

3. 作成組織

岩田より、作成組織案が提示された(資料2)。

作成グループおよびSRチームの人数はそれぞれ8学会×2名+(整形・泌尿器・外科それぞれ+1)=19名前後を予定することが承認された。

小寺委員より、委員の選定においてはサルコーマセンター設置施設および実質症例数

を考慮することが提案された。

西山委員より、初版は現存のガイドライン（主に海外から）のレビューを行うに止めるという意見も出されたが、協議の結果 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル2017 に沿って作成することとなった。

作成において国際医学情報センターのサポートを受けることが承認されたが、必要経費を確認したうえで決定することとなった。

各委員の兼任は、これを認めることとなった。

西山委員より、婦人科疾患や腹腔内発生の希少肉腫に関して含まれるガイドラインが無いことが厚労省からも指摘されており、本ガイドラインでこれら疾患にも言及することが提案された。

4. COI の管理方針

岩田より、COI の管理方針案が提示された（資料 2）。

小寺委員より、今年度は AMED 小寺班研究費で対処可能だが、初版作成後のアップデートを考え、資金提供を含め作成の主体を日本がん治療学会に置くことが提案され、承認された。

協議の結果、個人的 COI に関しては委員長および統括委員が提出することで同意がなされた。

5. 患者・市民参加

岩田より、患者・市民参加に関する案が提示された（資料 2）。

小寺委員より、患者・市民は意思決定の投票には参加しないことが Minds より推奨されていることが紹介された。

協議の結果、ガイドラインの草案に対する外部評価として参画していただく方針となった。

6. 作成手順・スケジュール

岩田より、作成手順・スケジュール案が提示された（資料 2）。

川井委員長より、2019 年 2 月の JSTAR 学術集会に合わせて第 1 回作成委員会を開催すること、またそれ以降は日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会、日本癌学会の開催に合わせて会議を開くことが提案された。

7. その他

岩田より、作成されたガイドラインの公表方法について、出版とするかインターネット公表に止めるかの検討が提案された。

小寺委員より、書籍としてのボリュームや資金、また出版社からのニーズなどを考慮し、今後検討していくことが提案され、承認された。

以上

文責：岩田慎太郎